

第7回こまつ創生会議 議事録（大要）

- 1 日 時 令和2年3月19日（木）
開会 15時00分 閉会 16時30分
- 2 会 場 小松市役所3階3B応接室
- 3 出席者 座 長 小松市長 和田 慎司
メンバー 角谷 淳子 氏
〃 河南 恵美 氏
〃 佐無田 光 氏
〃 塚本 直之 氏（新任）
〃 村上 正史 氏
〃 山中 宏昭 氏
- 事務局 総合政策部 国際&経営政策課
〃 財政課
- 4 協議事項 (1) 第1期こまつ創生戦略の成果等について
(2) 第2期こまつ創生戦略の策定について
(3) その他事項

5 議事の概要

- 新任メンバー（塚本氏）紹介・あいさつ
- 座長あいさつ
- 協議事項

(1) 第1期こまつ創生戦略の成果等について

（事務局説明）

2015～2019年度を期間とする「第1期こまつ創生戦略」について、今年度取り組んだ内容や数値の状況などを報告するとともに、今後の取り組み方等に対し、幅広く意見やアイデアを頂きたい。

■ 未来志向のまちづくりについて

- ・これから 10 年間切れ目なくの大きな節目が訪れる。そのスタートとして 2020 年を位置づけ、5 つの旗を基に施策を推進したい。
- ・（仮称）20 年ビジョンと並行して SDGs アクションプランや第 2 期戦略を実現していく。また（仮称）20 年ビジョンに関しても、今後ご意見を拝聴したい。

■ 人口の状況について

- ・国立社会保障・人口問題研究所の推計よりも上振れして推移している。
- ・2020 年度に国勢調査が実施される予定なので結果を注視する。
- ・全国的な動向であるが出生者数と死亡者数の差が少しずつ離れている。
- ・社会動態の転出入はここ最近、転入が転出を上回っている。
- ・若者の転出入についても飛行教導群の移転や商業モールの開業、公立小松大学の開学で増加が続いていた。

■こまつ創生総合戦略 2015-2019 年度 取り組み状況について

第 1 期こまつ創生戦略に掲げている数値目標を今期の結果を踏まえ「終了」・「継続」・「見直し」等に分類。結果を踏まえ第 2 期戦略案に反映していく。

- ・近年の出来事として、公立小松大学の開学や北陸新幹線開業等の交流人口拡大に向けたプラスの要因が多い。この交流人口拡大のチャンスを一過性のものにしないうために、小松市の強みを活かした施策を進めていく必要がある。
- ・現在は、大手ツーリストや上場企業等の民間企業と連携し、人材交流や企業の観光体験を進め、グローバルな視野で交流人口の拡大を図っている。
- ・里山地域では地域おこし協力隊が地域と協力し、外国人観光客の拡大のために特色を活かした体験を行い、特に西洋人観光客の増加につながっている。
- ・MICE の人数の指標をより詳細に分析、目標立てしていくと、やるべき政策が見えてくるのではないかと。また、交流人口の拡大だけでなく、現在増加傾向にある若者の転入についても施策が必要である。
- ・定住促進に向けては、短い期間でも滞在する機会を設け、県外の若い人たちに小松市の魅力を知ってもらうことが大切である。例えば、里山地域や駅周辺の商店街等のコミュニティと繋がりながら体験する機会を創出することで、より深く魅力を知ってもらえるのではないかと。
- ・新幹線開業等の効果で都心との距離が近くなることで、東京や大阪で起業した若者がサテライトオフィスなどの形態で利用することが考えられる。
- ・起業自体の支援は 11 年前から実施しており、特に女性の起業支援については成果も出ている。さらに都会の若者をターゲットとした起業支援をすることで価値が活気づいて明るいまちになると思う。

- ・今後、駅周辺の5G整備等のインフラ整備を進め、テレワーク等を利用した新たなビジネスの展開が生まれるとよい。
- ・女性の起業という観点では、働き方改革の推進によって、在宅ワークについて様々な検討されよい機会だと考えている。女性の就業にとって仕事・家庭・育児の3つのバランスがとれていることが非常に重要である。多様な働き方ができる職場環境が増えるとよい。
- ・また、起業のスタートアップ支援も大事だが、その後のフォローアップも大事である。例えば経理等の女性が苦手とする分野のフォローを行うことで、ステップアップしながら継続することができるのではないかと。
- ・合計特殊出生率は一般的に女性の就業率が高まると下がると言われている。合計特殊出生率と女性の就業率の両方を高めるためにはデータ分析し、小松市独自の施策が必要になると考えられる。
- ・定住促進の関係では、3世代住まいの助成の範囲をさらに拡大すると利用者が増えるのではないかと。
- ・超高齢化社会の到来に伴い、今後元気なシニアが増加すると考えられる。兼業・副業による働き方の多様化や退職後の起業についての支援があると良いと考える。就職氷河期世代に退職したシニアが技術やノウハウを継承するための「技術バンク」のような仕組みを想定してはどうか。
- ・75歳以上で介護認定を受けていない高齢者の割合である、はつらつシニア率だが、男女比で比較すると男性が78%、女性が64%と14ポイント差があることが分かっている。女性が介護認定を受ける最も多い要因は骨折であり、今後は運動や栄養指導を含めたレディスプランを推進し女性の健康づくりを応援する。
- ・女性の介護認定率の高さについては小松市だけでなく全国的に女性の方が高い数字となっている。金沢大学と連携しさらに詳細なデータ解析を行うことでより本市に適した方法が考えられる。
- ・CO₂排出削減率について、CO₂排出量の算定に用いる電力係数は電力会社の発電内容等によって基準が大きく変動するので、定量的な指標とならない可能性がある。そのため、並行してエネルギーを直接指標とする項目を設けてはどうか。
- ・全国的な傾向として外国人住民数はこれから増えていくことは確実なので、外国人住民数自体を指標にするのではなく、多文化共生・異文化共生に焦点をあてた指標を考えてはどうか。

(2) 第2期こまつ創生戦略の策定について

(事務局説明)

第2期創生戦略の策定のため、第1期創生戦略施策や成果指標の検証や見直しを行い、第1期策定以降の国や世界の動きとこれからの大きな節目や出来事を鑑みながら、前回の4つの旗に新たに1つの旗を加えた5つの旗で第2期戦略を策定したい。

- ・小松駅周辺の学びのゾーンにおいて人づくりの概念をより広範囲に捉えてはどうか。特に社会人における専門性を高める研修等は今後の人材育成の大きな柱になる。
- ・指標を策定する際には、できるだけ具体的にどういう人材をどれだけ育てたかが分かる指標にするとよい。
- ・北陸新幹線のメリットは東京と近くなるだけではなく、北陸地域内の移動時間も短くなり、結びつきが強くなることだと考えられる。例えば粟津温泉などに北陸地域からの旅行客が高まる事も想定される。また、九州新幹線の地域では、通勤・通学の利用者が多い。こうした事例を参考に北陸地域からの交流拡大させることも検討できるのではないか。
- ・小松市は駅と空港の距離が近く立地が良い。最近では海外の旅行者に向けて SNS を使った直接広告が集客にもつながっている。それを見た海外旅行者が魅力ある土地や場所に集まると、それを見た日本人観光客も集まり地域が活性化していく。
- ・気候災害の多発はほぼ確実に起こると思われる。そのためリスク（危機意識）とレジリエンス（対応力）を充実させていく必要がある。様々なリスクが起こりうる可能性があり、想定していなかった災害が起こることのリスクを常に念頭に置いておく必要がある。そのようなリスクが生じたときにも積極的に対応していくという人の力、すなわちレジリエンスを高めるということが大事になる。
- ・北陸新幹線小松駅開業により心理的な距離感が近くなる。さらに 5G の整備によりデジタル地政学的な距離感の解消、災害やエネルギー問題などにに対応できる。
- ・日本の中の先進的な自治体ではエネルギー政策の方向性を電力会社に任せるのではなく自治体自身が積極的に位置づけ推進している。CO₂削減だけでなくエネルギー改革と銘打った指標を掲げてはどうか。

(3) その他事項

(事務局説明)

- ・新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら会議を開き、引き続きメンバーよりこまつ創生への意見を伺う。
- ・本日の会議による意見等は、事務局でとりまとめ、後日市ホームページで公表する。